

MicroTAS 2013 に乗り込む



目で見る
海外論文発表

神田 元紀*

Report from MicroTAS 2013

Key Words : Microfluidics, MEMS

<参加会議名> The 17th International Conference on Miniaturized Systems for Chemistry and Life Sciences (MicroTAS 2013)

<開催場所> ドイツ連邦共和国フライブルク・イム・ブライスガウ

<渡航期間> 2013年10月26日から2013年11月4日

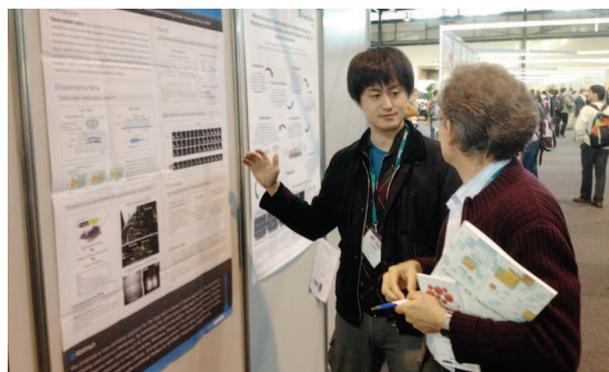
<発表タイトル> A microfluidic platform to generate a robust gas-liquid interface for organotypic slice culture over a long period

今回私はドイツ・フライブルクにて開かれた MicroTAS 2013 に参加しました。生命科学への応用を目的としたマイクロ流体工学 (Microfluidics)、微細加工、ナノテクノロジーに関する世界最大級の学会です。私自身の専門は分子生物学であり、いわゆる工学系の研究はなじみがなかったのですが、研究の道中で Microfluidics を利用したデバイスが必要不可欠と判明し、設計・作成、最終的には本学会での発表まで至りました。

朝から昼にかけての口頭発表では質問が少なく、活気のない学会なのだと少しがっかりしましたが、午後からのポスターセッションの盛り上がりはこの学会の本当の姿を見ました。聞けば、口頭発表は既

に完成しきったデバイスの発表であり議論の余地がありません。対してポスターセッションでは出たてのアイデアとプロトタイプが溢れており非常に活発な議論が行われるとのことでした。プロトタイプを比較的簡単に作れる分野を少し羨ましく思いました。

異分野の国際学会に単身乗り込んだがゆえの寂しさもありましたが、結果として大正解の判断でした。普段あまり接することのない工学系研究者達の最先端の現場に乗り込み、議論だけでなくふんだんに雑談ができたことは、彼らがどのような科学思想に基づいて研究を行っているのかを身をもって学ぶことができる素晴らしい機会でした。この経験を基に、自分の研究を生物系・工学系の両面から一層深めることができるよう精進したいと思います。



ポスターを前に激論を交わす



*Genki KANDA

1987年9月生
北海道大学大学院 生命科学院 修士課程修了 (2012年)
現在、大阪大学大学院 生命機能研究科 / 理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター システムバイオロジー研究プロジェクト 博士課程 / 日本学術振興会 特別研究員DC2 M.Sci 分子生物学
TEL : 078-306-3191
FAX : 078-306-3194
E-mail : kdgn@fbs.osaka-u.ac.jp



会場のメッセフライブルク



会場では果物が食べ放題